

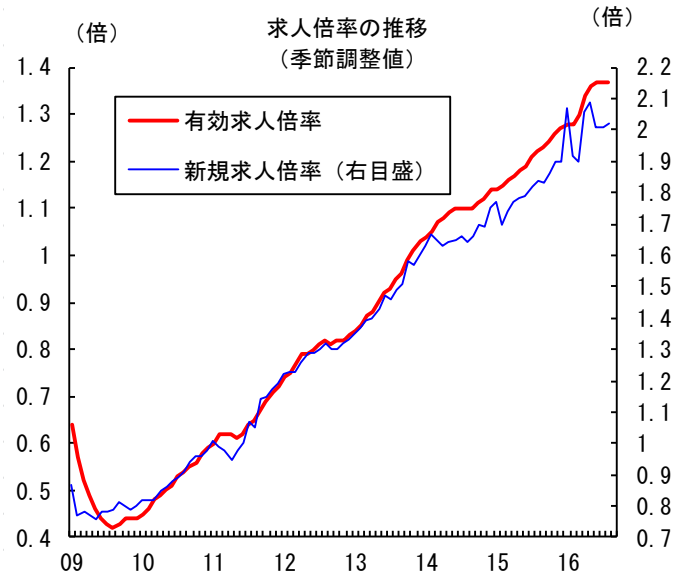
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2016年8月） 発表日：2016年9月30日（金）  
 ～失業率は悪化も、雇用情勢は非常に良好～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

## ○均してみれば改善基調

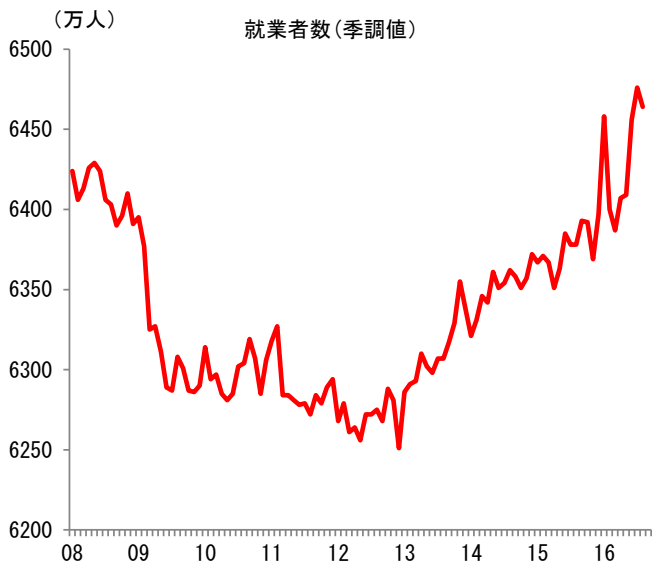
総務省から発表された2016年8月の完全失業率は3.1%と、前月から0.1%Pt悪化した。もともと、引き続き低水準であり、労働需給が引き締まった状態にあることに変化はない。失業の内容をみても、非自発的な離職が（今月は微増とはいえ）明確な減少傾向にあり、雇用情勢は引き続き非常に良好とって良い。

また、季節調整済みの就業者数は前月差▲12万人（7月+20万人）と減少しているが、これまでの急ピッチでの増加からのスピード調整といったところだろう。均してみれば好調持続とみて良い。雇用者数も前月差▲1万人（7月+11万人）と微減だが、こちらも均せば明確な増加傾向にある。また、前年比でも就業者数が+1.3%、雇用者数が+1.5%と高い伸びが続いている。就業者数、雇用者数とも、昨年と比べて伸びが拡大しており、雇用が着実に改善していることがみとれる。

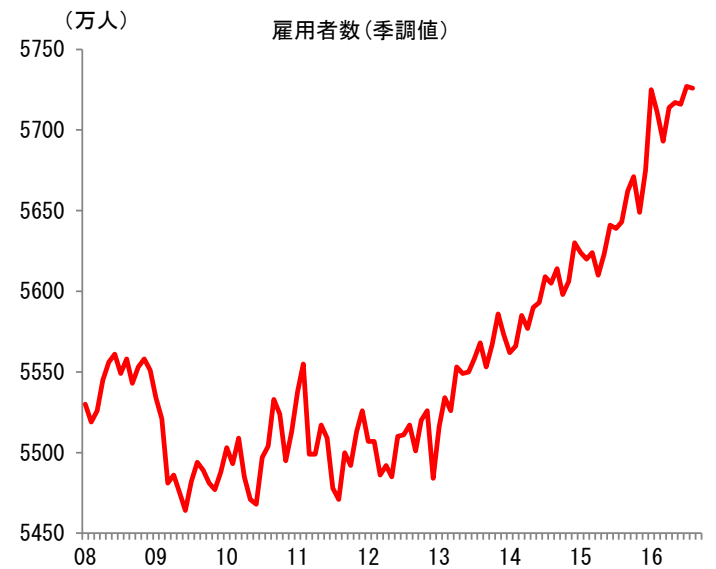
## ○ 求人も増加基調

厚生労働省から公表された16年8月の有効求人倍率は1.37倍と前月と同水準、新規求人倍率は2.02倍と前月から0.01ポイントの改善となった。有効求人倍率は1991年8月以来の高水準であり、労働需給の引き締まりを示す結果といえる。有効求人数は季節調整済み前月比▲0.1%（7月：+0.7%）、新規求人数も前月比▲0.8%（7月：+1.4%）と、求人数こそ今はやや減少しているが、ともにこれまでの増加の反動の域を出ず、均してみると着実な増加傾向持続といった評価で問題ない。

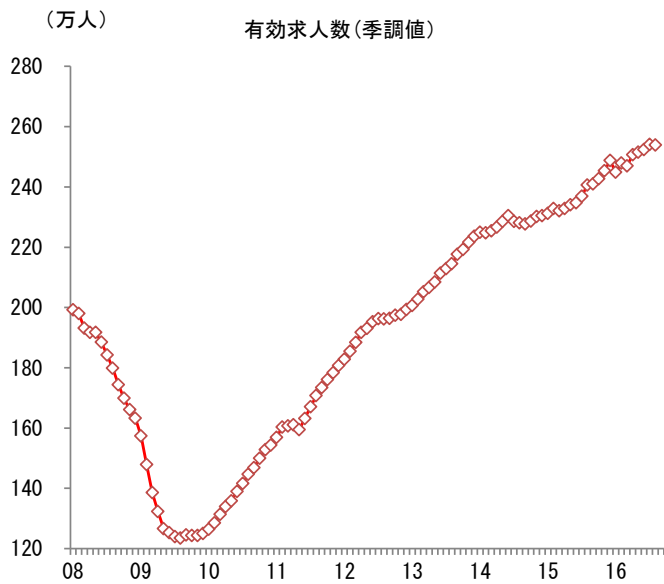
このように、雇用者数の動きに先行する求人数が改善傾向を続けていることからみて、先行きも雇用情勢は堅調さを持続する可能性が高いと思われる。失業率の2%台突入も、近いうちに実現する可能性があるだろう。個人消費は未だ回復感に乏しい状態が続いてるが、こと雇用情勢に関してはむしろ加速しているようにも見える。こうした良好な雇用情勢が、先行きの消費の下支え要因になることが期待される。



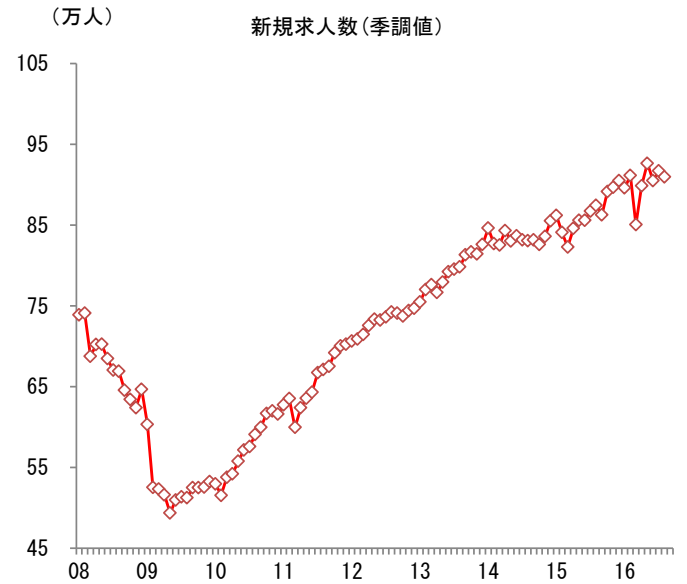
(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」